

令和3年7月5日

学校法人三幸学園

辻学園栄養専門学校

校長 下畠 照正 殿

学校関係者評価委員会

委員長 町井 俊彦

### 学校関係者評価委員会実施報告

令和2年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

#### 記

##### 1 学校関係者評価委員

- ① 町井 俊彦 (有限会社メディッシュフードサービス 代表取締役)
- ② 石田 紘一 (第11期卒業生)
- ③ 堀江 大志 (飛鳥未来高等学校 副校長)

##### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

令和3年6月25日(会場 辻学園栄養専門学校 2階応接室)

##### 3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

# 2020年度 学校法人 三幸学園 辻学園栄養専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 佐藤 俊介

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 町井 俊彦

## 1. 学校の教育目標

三幸学園は昭和60年の開校以来『技能と心の調和』を教育理念に掲げ、教育を展開してきた。ここでは、社会への有益な職業人を数多く輩出することを目標に“有益な職業人とは、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため日々研究・研鑽を続け、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物”と定義し、心豊かな人間性を育む教育に注力している。

この基本理念は教職員に対し、教職員手帳に明記し配布している他、全教職員が一同に集う「全体会議」や全国の教職員が集まる研修会である「ビジョンミーティング」や「サマーセミナー」において理事長からの訓示の中で繰り返し唱え、共有化を図っているものである。また、生徒に対しては、「入学式」や「スタートアッププログラム」において、校長や教職員からの言葉として示すとともに、本校独自のカリキュラム「未来デザインプログラム」の授業で使用する「夢のスケッチブック」に記載し、周知を図っている。この他、受験生・高等学校・保護者等に対しては、オープンキャンパス・高校訪問・保護者説明会等を通じて伝え、また、パンフレットに明記することにより学内外の周知に努めている。

## 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ・人間性を高める教育の実践

「伝統に培われた技術と心を高め、食文化を通じて社会に貢献できる人材」を育成することを、目指す人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、真に社会に役立つ人材を輩出できると考えている。

その一例として、教職員から「礼儀正しく、自ら挨拶をする」・「整理・整頓と常に清潔に学校を保つ」など基本的を大切にされた継続的指導を実践している。

### ・高い現場力の醸成

各科目においてシラバスをふまえた重点項目を作成し、教育の質向上を実現できるよう計画している。

そのための考え方として、生徒に社会人育成の場であることを理解してもらい、「栄養士業界で一目置かれる存在になるための土台作り」の為に、実践的な教育を進めている。

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1). 教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

#### ① 課題

学園としての理念・学校目標・育成人材像は明確なものになっており、生徒・保護者への周知は、毎年4月のスタートアッププログラム及び保護者会等を通して行われている。しかし、2020年度は新型コロナウイルス感染防止の為、スタートアッププログラムはオンデマンド視聴となった為、十分な理解が得られていない可能性がある。その後の教育理念を体感させる働きかけを継続的に実施することが課題である。

#### ② 今後の改善方策

教職員については教務会議を毎週実施し、生徒についてはホームルームや日々の指導の中で、専門学校は「社会人育成の場」であることを理解させ、継続してプログラムを実施することで浸透をはかる。

#### ③ 特記事項

教育理念から育成人材像をより体系化するべく、三幸学園のビジョンをふまえ、辻学園栄養専門学校におけるビジョンを「食を通じて、日本を明るく元気にする」と設定している。また、育成人材方針を「伝統に培われた技術と心を高め、食文化を通じて社会に貢献できる人材」と設定し、全教職員及び生徒への浸透を実施している。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

「町井委員」

教育理念・目標の達成については、自己評価においても概ね高い評価であるため、問題は無い。

## (2). 学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

### ① 課題

全体的な視野で学校運営を考える教員力の強化。

### ① 今後の改善方策

総合職に必要な知識の習得機会（自己啓発含む）を設け、常に情報共有を行い、全体的な視野を養う機会を増やす。業務フローを再点検し、業務の効率化を図る。

### ② 特記事項

毎週実施の教務会議、週 1 回の役職者会議、年2回の全体会議を通して、学校運営状況の共有及び好事例発表・課題抽出を行っている。

### ③ 学校関係者評価委員会コメント

「堀江委員」

各職員の日常業務、実習や授業、校務分量の見直しを行い、効率的な業務運営体制を整え、より主体的に業務や研修に取り組める環境づくりに努めて欲しい。

### (3). 教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

#### ① 課題

2020 年度は新型コロナウイルスの蔓延により、一部授業においてメディア授業を実施。教員もメディア授業体制の整備に対応することになった。メディアを活用した授業においても、対面授業と変わらない質の高い教育を実施することが課題である。また、貴重な集団給食を体験できる 2 年次の校外実習も急遽、学内開催となった。このようなケースも想定した、より現場がイメージできる実習環境を構築する必要もある。

#### ② 今後の改善方策

対面授業と同レベルのメディア授業スキル習得に向けた教員研修を実施する。校外実習に関しては、学内開催になることも想定し、計画的に給食会社様と連携して郊外実習の準備に取り組む。

#### ③ 特記事項

2020 年度においても産学連携の1つとして「食の第6次産業プロデューサー」講座を継続実施。商品開発を行うことで地域活性化の一助と自己啓発に取り組んだ。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

##### 「町井委員」

コロナウイルスの影響で、校外実習が学内実施となった事は残念に思う。  
今年度の校外実習は予定しているのか？

##### 「堀江委員」

校外実習が学内実施となったことは、町井委員同様に残念に感じる。コロナ禍前とコロナ禍中に生徒に提供した教育方法や教育の質の違い、そして、その教育を受けた生徒の満足度が気になる。

##### 「石田委員」

このコロナ禍では校外実習の中止は仕方なく、限られた環境の中での学内実施は苦勞されたかと思う。  
一方、今後も学内実施が続くようであれば、より本来の校外実習に近づけるような体制作りが必要かと考える。

##### 「本校からの回答」

例年に比べ、2020年度の退学率は低下している。退学率が生徒の満足度の表れの一つとするのであれば、生徒の満足度は概ね高かったと考える。しかし、校外実習方法の見直しをはじめ、多くの学校行事が中止となり、授業以外で行う社会人育成の機会が十分取れなかった点など、一長一短の年度であった。オンライン授業においての工夫としては、オンデマンド型ではなく、全クラス同時双方型で実施し、講師と生徒がリアルタイムでコミュニケーションをとれる形でのオンライン授業を実施した。また、できる限り通常の時間割通りで授業実施したことによりオンライン授業でも十分に授業時間の確保ができた。また、生徒も登校時と同様のサイクルで生活ができ、対面授業に戻った時もスムーズに登校できる生徒が多かった。ただ、昨年と同様に今年度も校外実習は学内で実施する予定。その理由としては、今後の状況が不透明であり、協力いただける給食会社様を早期に確保し、確実に校外実習を実施するためのやむを得ない策である。しかし、昨年の反省を踏まえ、今年度はより良い実習の為に十分な準備で臨める体制を整えている。

#### (4). 学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

##### ① 課題

前年度に比べて、退学率は改善したが、メディア授業の実施により、自宅から受講できる環境が退学率の低減の一因となったのではないと思われる。その為、昨年度からの課題でもあった生徒へアプローチ頻度をあげていくことは引き続きの課題である。また、卒業生の入社後の就業状況を把握することも課題のひとつである。

##### ② 今後の改善方策

教員間の連携を強化し、生徒情報の共有促進をはかる(教務会議の頻度を増やし、教科会議の開催)企業情報および卒業生情報を収集できるようなツール(卒業生支援ネットワークの構築)を導入し、より密に連携が図れる環境にする。

##### ③ 特記事項

2020年度退学率 5.5%(2019年度 8.8%) / 2020年度就職率 100%(就職希望者としての数値)

##### ④ 学校関係者評価委員会コメント

「町井委員」

課題としてあがっていた卒業後の状況把握を積極的に進めて頂きたい。また卒業後情報共有についての連携も積極的に協力したい。

「堀江委員」

就職率 100%は感心している。世間ではコロナウイルスによる就職の影響が話題となり、特に飲食業界への就職はかなり厳しいという認識であった。栄養士の就職にコロナウイルスの影響を受けなかったのか、または就職支援方法を従来とは変更したのかをお聞きしたい。

「石田委員」

退学率の低下、就職率 100%は素晴らしいと思う。ただ卒業後、転職を考える卒業生も多いと思う。卒後の就職や転職支援のサポートやフォローアップ体制及び、退職率の把握も検討して欲しい。

「本校からの回答」

ホテル、レストランなどの飲食業界は確かにコロナウイルスの影響を受けている。しかし、栄養士がこれらの飲食業界へ就職することはまれであり、多くの生徒は給食会社、病院、小学校や高齢者施設や保育園などの福祉分野であり、コロナウイルスの影響を受けなかったことが幸いした。しかし、社員食堂はコロナウイルスの影

響で縮小され、社員食堂を希望する生徒の就職活動は苦戦したことは事実である。また、年度当初は企業様も採用活動を見送っていた時期もあり、就職内定時期は例年に比べ後ろ倒しにはなった。

また、例年は対面での企業説明会や面接が主流であったが、2020年度の就職活動の多くはオンラインであった。そのため、早期にオンライン面接のための指導に切り替えた。

近年、高い就職率はキープできているが、離職率の把握と転職支援が弱いことは確かである。また、離職率の低減を目指し、就職率だけではなく、企業と生徒のベストマッチを意識した就職支援を実施したい。



## (5). 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

### ① 課題

就職指導におけるオンライン化への対応

卒業後のキャリア形成に役に立つ資格取得サポート、再就職支援の強化

### ② 今後の改善方策

メディアを活用した就職活動の支援体制を整える。

管理栄養士対策講座のメディア化をはかり、学びの機会を広げる。

### ③ 特記事項

心理面で不安を抱える生徒を対応するためにカウンセリング室の設置している。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

「石田委員より」

現場で働いてから「思っていた仕事と違う」という話をよく聞く。卒業・就職前に実際にその会社で働いている卒業生や会社の方と十分話やコンタクトが取れるような環境づくりをしていく事が、離職率低下にも繋がると思う。

「本校からの回答」

本校での就職支援の一つとして、学内での企業説明会を実施。1年次の就職決起大会では、1度に複数企業にお越し頂き、同じ給食会社であっても特色の違いを理解できる場を設けている。また、2年生に対しては企業様に1社ずつお越し頂き、より丁寧な企業説明会を実施。企業様と生徒の就職後のギャップを埋めるように努めている。

「堀江委員」

専門学校生徒の多くは19歳、20歳が中心だと思われる。成人に近い年齢ではあるが、保護者が学費を支払っていることが多いため、学校と保護者との連携や協力依頼の体制の整備は必要である。具体的な取り組みなどがあれば回答を願いたい。

「本校からの回答」

本学は単位制位であるため、出席不良科目は再履修となり、翌年以降に下級クラスで該当科目を再履修することになる。再履修を未然に防ぐためには特に出席管理には注力している。具体的には欠席回数により、生徒本人への注意喚起、保護者様への連絡、三者面談を実施。その他、年度当初に保護者様へ新担任からのご挨拶、通知表を郵送する際に保護者様に向けて一筆添えることを推奨している。また、就職内定を頂いた時など、良いお知らせのご連絡も行うように心がけ、保護者様とのコミュニケーションを図る努力を行っている。本学はオープンキャンパスに保護者様が来られることも多く、保護者会などで入学後に学校から色々な場面でお電話を差し上げることがある旨の説明も行っている。

2020年度は幸いにも退学率を低減することができた。今後、対面授業が多くなった場合、登校習慣をうまく作れずに退学を選択する生徒が出る可能性がある。通信制高校での取り組みや退学させない工夫などがあればご教授頂きたい。

「堀江委員」

コロナウイルス感染予防のためにスタートしたオンライン授業ではあるが、生徒もオンラインに慣れ、職員側もオンライン授業でも教育ができる手ごたえも感じていると思う。対面とオンラインの長所をうまく活用するのも良いのではないかと。

## (6). 教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

### ① 課題

本校が現校舎に移転し、10年以上が経過。そのため校舎および各設備に経年劣化がみられる。  
また、館内のwi-fiが脆弱であり、オンライン授業の発信や受信等に影響がでている。

### ② 今後の改善方策

施設設備の計画的な修理とそれに伴う予算確保し、授業等に影響が出ないように努める。

### ③ 特記事項

年に1回以上、登校日やホームルームを使用して避難訓練および防災、安全管理に対する啓蒙を実施。  
また、災害時に備えるための冊子を配布し、生徒には常に携帯するように指導している。  
2020年度の海外研修は実施ができ、生徒の見聞を広める学習機会を提供することができた。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

#### 「堀江委員」

飛鳥未来高校も同法人であるので、教育環境は辻学園と同様教育環境は随時、整ってはきています。確認としては、災害時に備える準備についてです。都道府県によっては県が発信する「県防災訓練週間」などの時間を利用し、避難訓練を実施したりするが、辻学園で行っている訓練はどのようなものなのか？また、訓練に参加する生徒の様子はどうか？また、緊急事態時に備えての食料品等の備蓄の準備についても確認したい。

#### 「町井委員」

インターネット環境の整備は今後ますます重要になると思われる。至急の改善を期待したい。

#### 「石田委員」

町井委員同様、このご時世ではwi-fi環境の整備は急務と思われる。

#### 「本校からの回答」

本学校舎は8階建てであり、栄養士校生徒7階～8階を使用している。避難訓練ではエレベーターが使えないことを想定し、階段を使用し、駐車場までのルート確認している。また、中ノ島公園は大阪市北区の広域避難場所でもあるため、公園までのルートも合わせて確認している。その際、避難までに必要な時間なども体感できるような訓練を実施。また、校舎には実習室が多く、火災のリスクが高いため、避難訓練は主に火災を想定したものである。しかし、緊張感を持って訓練参加が望ましいが、現状としては職員と生徒の訓練に対する意識の差はある。また、備蓄品については長期保存できるビスケットタイプの携帯食と地下タンクにはある程

度の水は蓄えている。

「堀江委員」

自身が実際に災害時に校舎内で生徒がどのような状態に陥るのかを体験した。このような経験からできる限り様々な状況を想定した訓練の実施を計画して欲しい。

## (7). 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

### ① 課題

入学後に学習内容についてイメージがついていない生徒がいる。

社会人、既卒者への募集活動強化

### ② 今後の改善方策

入学前イベントを実施し、入学後のギャップを少なくする。

教育訓練給付金の再認定

### ③ 特記事項

2021年181名入学(定員200名に変更)

自身の現状を把握してもらうために、入学前に基礎力確認の筆記テストを実施している。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

「町井委員」

入学前後のギャップを埋めることは必要である。今後もぜひ続けて欲しい。

「堀江委員」

今まで三幸学園が続けていた募集活動がようやくここ数年で軌道に乗った感がある。

姉妹校の生徒が辻学園に再進学したいと思えるような魅力のある学校にして頂きたい。

「石田委員」

特にありません。今後も順調な募集活動が続くことを期待している。

「本校からの回答」

2021年度より入学定員を160名から200名に変更。広報活動も順調に進んでいる。

社会人、既卒のニーズに沿った募集活動としては、教育訓練給付金の再申請により、社会人、既卒者にも選択していただける幅が広がるように努力したい。

## (8). 財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

### ① 課題

【中長期計画】 なし

【予算・収支計画】 なし

【会計監査】 なし

【財務情報の公開】 なし

### ② 今後の改善方法

【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】 なし

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

## (9). 法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

### ① 課題

コンプライアンス順守のチェック体制をより適正に管理する必要がある。

### ② 今後の改善方策

必要に応じて各種会議などを通して、全教職員にコンプライアンスに対する啓蒙を継続的に図る。

### ③ 特記事項

特になし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

特に気になる点はない。

## (10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

### ① 課題

より積極的な社会貢献・地域貢献に対する取り組みが実施できなかった。

### ② 今後の改善方策

社会貢献の重要性を発信すると同時に生徒の社会性を養う(SDGsの実践)

### ③ 特記事項

リカレント教育の促進の為、地域の方々や卒業生に向けた公開講座の実施

その他、ボランティア活動等は新型コロナウイルス感染防止のため、活動は中止となった。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

「町井委員」

コロナウイルスの影響もあり、今まで通りの活動は難しいとは思いますが、できる限り積極的に地域に向けての取り組みをお願いしたい。

「堀江委員」

現状に満足せずに、さらに積極的に取り組んで頂きたい。また今後は SDGs を意識した活動に取り組んでいただけるように期待している。

「石田委員」

社会貢献・地域貢献が実施できなかった事については、このコロナ禍では仕方ない。

社会貢献活動が卒業後のいい経験となり、現れてくると思うので、オンラインを活用し、また違った形での実施を検討を望む。

「本校からの補足説明」

例年は定期的にごみ減量フェアなど地域貢献活動、食育活動には生徒とともに参加してきたが、2020年度はほぼ、活動を行うことはできなかった。しかし、今年度はリカレント教育の提供機会として、オンラインでの公開講座を2回実施した。例年とは違う形ではあるが、新しい地域貢献方法を生徒とともに模索していきたい。



#### (11). 国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	4

##### ① 課題

従来、留学生の入学は少数であり、また留学生が栄養士としての就労が困難な状況である。

##### ② 今後の改善方策

留学生を対象とした広報活動および卒後の支援体制強化。

##### ③ 特記事項

姉妹校の調理・製菓校との留学生交流会の案内を実施し、留学生間の交流を図った。

2020年度2名在籍

##### ④ 学校関係者評価委員会コメント

「町井委員」

少数でも留学生の方がおられるのであれば、関わりを今後も積極的に行って頂きたい。

「堀江委員」

今後、生徒募集において留学生受入は学園としての課題の一つである。異文化もつ生徒を受け入れる場合の教育の担保をどう保障していくのかは課題である。

「石田委員」

私の現場でも今年初めて留学生の受け入れを行った。ただ、手続きや規制が煩雑であった。

受け入れ側の企業でも、留学生受入に対する研修などが必要かと考える。学園側と企業がともに連携をとれる環境が作れることを望む。

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・ 退学率は低下したものの、コロナ禍以降の登校型授業に戻った場合に、低い退学率を維持するための対策を早期に取る必要がある。
- ・ 現状、学校運営に関して一定の評価は出ているが、例年と同様に個々の生徒対応において、より教職員側の対応スキル向上(メディア授業の質向上含め)に課題感をもって取り組んでいく必要がある。
- ・ 教職員は学校における自身の貢献度や生徒指導を考え、教育方針を実行するための教職員教育は継続実施する。
- ・ 入学生が増えたことは学校としての存在意義が示せていることになり喜ばしいことである。ただ毎年、心

に様々な悩みを抱えている生徒がいることをふまえると、その分生徒に関わっていく時間も多くなるので、献身的な生徒対応をすることが健全な学校運営につながることを意識する。

#### 町井委員よりの総括

コロナウイルスの影響がまだ残る中、まだまだ変化が求められるものがある。

#### 堀江委員よりの総括

当初、コロナウイルスによる影響もあり、心配していたが、学校側の準備や対応力がこのような好結果になったと思う。今後の学校運営にも期待したい。

#### 石田委員よりの総評

コロナ禍での学校運営には苦勞されていると思いますが、より一層の学生満足度の向上に期待する。

以上

令和2年7月3日

学校法人三幸学園  
辻学園栄養専門学校  
校長 下畠 照正 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 町井 俊彦

### 学校関係者評価委員会実施報告

令和元年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

#### 記

##### 1 学校関係者評価委員

- ④ 町井 俊彦 (有限会社メディッシュフードサービス 代表取締役)
- ⑤ 石田 紘一 (第11期卒業生)
- ⑥ 堀江 大志 (飛鳥未来高等学校 副校長)

##### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

令和2年6月24日(会場 辻学園栄養専門学校 2階応接室)

##### 3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

# 2019年度 学校法人 三幸学園 辻学園栄養専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 佐藤 俊介

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 町井 俊彦

## 1. 学校の教育目標

三幸学園は昭和60年の開校以来『技能と心の調和』を教育理念に掲げ、教育を展開してきた。ここでは、社会への有益な職業人を数多く輩出することを目標に“有益な職業人とは、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため日々研究・研鑽を続け、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物”と定義し、心豊かな人間性を育む教育に注力している。この基本理念は教職員に対し、教職員手帳に明記し配布している他、全教職員が一同に集う「全体会議」や全国の教職員が集まる研修会である「ビジョンミーティング」や「サマーセミナー」において理事長からの訓示の中で繰り返し唱え、共有化を図っているものである。また、生徒に対しては、「入学式」や「スタートアッププログラム」において、校長や教職員からの言葉として示すとともに、本校独自のカリキュラム「未来デザインプログラム」の授業で使用する「夢のスケッチブック」に記載し、周知を図っている。この他、受験生・高等学校・保護者等に対しては、オープンキャンパス・高校訪問・保護者説明会等を通じて伝え、また、パンフレットに明記することにより学内外の周知に努めている。

## 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### 1、前年度重点施策振り返り

#### ・人間性を高める教育の実践

本校では「伝統に培われた技術と心高め、食文化を通じて社会に貢献できる人材」を目指す育成人材方針とし、知識や技術の研究に留まらず人間性を高める教育を併せて展開することで、真に社会で役立つ人材を輩出できると考えている。

その一例として教職員からは生徒に対し、「時を守り・場を清め・礼を正す」を継続的に指導することを実践している。

#### ・高い現場力の醸成

各科目においてシラバスをふまえた重点項目を作成し、教育の質向上を実現できるよう計画している。そのための考え方として「栄養士業界で一目置かれる存在になるための土台作り」を生徒に掲げて、実践的な教育を進めている。

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

#### ① 課題

学園としての理念・学校目標・育成人材像は明確なものになっており、生徒・保護者への周知は毎年4月のスタートアッププログラム及び保護者会等を通して行われている。  
ただ、意識させることを継続的に実施することが足りていない状況もある。

#### ② 今後の改善方策

教職員は月2回の教務会議、生徒については授業や週1回のホームルームや日々指導の中で、「常に意識し継続する」ことを理解させ、「社会人育成の場としての専門学校がある」をふまえた共有を浸透させる。

#### ③ 特記事項

教育理念から育成人材像をより体系化するべく、三幸学園のビジョンをふまえ、辻学園栄養専門学校におけるビジョンを「食を通じて、日本を明るく元気にする」と設定している。また育成人材方針を「伝統に培われた技術と心を高め、食文化を通じて社会に貢献できる人材」と設定し、全教職員及び生徒への浸透を実施している。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

（町井委員）毎年、社会人育成における心の教育に力を入れていることは評価できる。

ただ挨拶が少なくなっていることは来校時に感じている。指導継続は大変だが、生徒に社会人としての基本は今後もしっかり伝えてほしい。

（石田委員）特に問題は感じていないが、継続指導をするために教職員への周知徹底を意識して欲しい。

（堀江委員）年々、社会人経験者のニーズが増えている印象がある。指導においてはそれぞれにメリハリをつけて対応して欲しい。

## (2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

### ① 課題

教職員自身の専門分野における運営については明確化された内容で円滑に進められているが、全体的かつ多角的な視野で運営を実行していくことに対する意識が低い時が見受けられる。

### ② 今後の改善方策

年度末に次年度へむけた全体会議の中で三幸学園の運営方針として掲げるコスモスネットワークを改めて周知し、自身の業務内容が単一的や非効率になっていないか役職者やそれぞれに確認して円滑な運営方法の見直しを実行する。

### ③ 特記事項

週1回の運営者会議・月2回の教員会議・年4回の全体会議・年1回の全講師会を通して学校運営状況の共有及び好事例発表・課題抽出を行っている。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

（町井委員）特に問題は感じられない。

（石田委員）年度毎の運営方針が明確に示されている。

（堀江委員）会議内での共有は感じられるが、事例をふまえたそのあとのフォローの結果も共有することでより健全な学校運営が行われると思うので対応を検討してほしい。

### (3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

#### ① 課題

教員間の連携が十分でない場合のフォロー体制や実習先評価をふまえた学校教育効果の検証が少ない。また成績評価基準の認識相違で評価に差が出た状況がある。

#### ② 今後の改善方策

年2回の専門性研修や年1回の就業年次別の教員力向上研修を実施し、教員力を向上させる。年度初めにシラバス会議を実施し、授業の内容把握とすり合わせを確認する。

#### ③ 特記事項

毎年、産学連携の1つとして、「食の第6次産業プロデューサー」講座を実施。商品開発を行うことで地域活性化の一助と自己啓発に取り組んでいる。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- (町井委員) 教育活動については実施の体系の構築化がなされている印象を受けた。  
生徒の入れ替わりサイクルは高校では3年、専門学校は2年で入れ替わる。  
同様に職員の転勤移動も発生し、人の入れ替わりは流動的である。そのため、  
教育活動などはハード面よりソフト面を柔軟に考えるべきである。
- (堀江委員) 教育効果を狙って行っている、常にその学年にマッチするとも言えない。  
また、良い結果が出た方法にばかり拘らず、敢えて違った方法を試してみるなどの  
柔軟な対応を行って欲しい。これに関しては、高校も専門学校も共通である。
- (石田委員) 2020年度は新カリキュラム導入と学年制から単位制に移行したとのことで  
今年度はより柔軟な対応が求められる年になる。



#### (4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

##### ① 課題

卒業後教育の還元が少ない。

前年に比べて退学率はやや改善したが、生徒へのアプローチが足りていない状況がある。

##### ② 今後の改善方策

クラス担任を増やし生徒対応の機会を増加させる。

日々の授業見学やクラス訪問で生徒とのコミュニケーションを強化。

非常勤との連携を強化し、生徒情報の共有を促進。

就職に関する意識を引き続き早くもたせる。

毎年実施の国家試験対策講座(卒業生無料参加)時に卒業生の声を聞く機会を増やし、現在の教育活動に生かす。

##### ③ 特記事項

2019年度退学 24名・8.8%(30年度 9.9%)

2019年度就職 100%(希望者 101名)

##### ④ 学校関係者評価委員会コメント

(町井委員) 退学理由に目標喪失、学校への不信感があったが、輩出する卒業生数が学校の評価となるのか、卒業生の栄養士としての質が学校の評価となるのか判断が困難な印象がある。評価の一つとなる退学率が高い印象があるので、今後も引き続き対応をして欲しい。

(堀江委員) 退学や学修成果の数値の指標が進学率や退学率であり、高校も同様。退学者の一定数はやむを得ない。退学率0%が理想であるが、通信制や単位制高校出身、認定されてはいないが、精神疾患をもつ者が年々増加する傾向がある中で退学率0%を目指すよりも、退学をどう防ぐのかを考えることが重要。

(石田委員) 退学率が2018年度から2019年度に1.1%の軽減につながった要因分析をされていると思う。しっかり分析して今度更なる減少に転じて欲しい。

## (5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

### ① 課題

生徒指導面でクラス間に差が出ている状況がある。

心理面で悩みを持つ生徒へのアプローチが不足

卒業生への就職案内といった支援が少ない。

### ② 今後の改善方策

ホームルームをふまえて生徒の目標達成に向けた環境を構築していく。

例年実施している授業参観を継続実施し、保護者との連携を強化し、生徒の対応に生かしていく。

卒業生に対し、学校の連絡ツールを使用した就職支援や近況確認を実施する。

### ③ 特記事項

心理面で不安を抱える生徒を対応するためにカウンセリング室の設置を実施。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

（町井委員） 例年保護者会では保護者様よりの積極的な意見などがあると思う。

個別の依頼や相談は真摯に受け止め、対応を続けてほしい。

（堀江委員） 新型コロナウイルスの影響により、今まで保護者会など対面で行ってきたことが実施できなくなることが容易に想定される。現在、情報発信して、生徒が受け取るまでの確認はできていた。しかし、本来は生徒自ら情報を取りに来ることが当たり前である。今後は生徒が情報を取りに来ることができるような環境整備が必要。

（石田委員） 保護者に向けに情報発信ができる運用が不十分に感じるので保護者も自ら情報を入手する手段が整備して欲しい。

## (6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

### ① 課題

生徒の防災に対する意識が希薄になっている。

### ② 今後の改善方策

年度初めに学園で作成したハザードマップを配布し、防災への意識を高める。

7月から9月にかけて避難訓練や災害警報発令時の行動について指導を実施。

### ③ 特記事項

外部との連携を踏まえた講習・体験実習を増加し、学外での教育体制を更に強化していく。

※スポーツ栄養実習・ビューティー栄養実習を外部企業との連携で実施。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

（町井委員） 避難訓練は必ず継続実施してほしい。今後災害は増える印象なので危機管理意識を持たせることが大事。

（堀江委員） 学外の教育体制については今後とも実施を継続してほしいが、感染対策を十分に行うことを周知してほしい。

（石田委員） 校外実習生徒について自身の目標を今一度、認識させ、モチベーションの低下を防ぐ対応を行ってほしい。

## (7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	3

### ① 課題

入学後に勉強をする内容についてイメージがついていない生徒がいる。

### ② 今後の改善方策

在校生の声を活用し、勉強のイメージを持たせ、卒業生の声で業界へのイメージを持ってもらえるようにする。入学前イベント・オリエンテーションを実施し、入学後のギャップを少なくする。

### ③ 特記事項

自身の現状を把握してもらうために入学前に基礎力確認の筆記テストを実施。  
2020年 171名入学(定員160名)

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- (堀江委員) 募集が定員に達していることは学校にニーズがある証明になる。  
学校の社会的意義を伝えて欲しい。
- (石田委員) 入学前教育は生徒の状況把握には必須と感じるので  
今後も継続実施して欲しい。

## (8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

### ① 課題

#### 【中長期計画】

なし

#### 【予算・収支計画】

なし

#### 【会計監査】

なし

#### 【財務情報の公開】

なし

### ② 今後の改善方法

#### 【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

#### 【財務情報の公開】

なし

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

## (9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

### ① 課題

コンプライアンス順守のチェック体制が十分でないところがある。  
※個人情報の管理不足等

### ② 今後の改善方策

全教職員のコンプライアンスに対する啓蒙を継続的に図る。

### ③ 特記事項

特になし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- （町井委員） 個人情報は毎年漏洩が社会問題になっている。  
管理に乱雑になることがないように徹底して欲しい。
- （石田委員） 問題点は毎年同じ項目が出やすい。  
重点事項はしっかり把握して改善に取り組んで欲しい

## (10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

### ① 課題

学校からの呼びかけを積極的に取り組んでいない。

### ② 今後の改善方策

学校として行える地域貢献を考え、学校側からのアプローチを積極的に実施していく。

### ③ 特記事項

2019年度

社会貢献

枚方市ゴミ減量フェアにブースを展開。

交野市及び尼崎市の特別養護老人ホームで入所者に対して祭りのボランティア実施。

地域貢献

大阪市北区主催の食育展に参加。

尼崎市及び大阪市の保育園・幼稚園で在校生による食育の特別講義を実施。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	4

① 課題

留学生の卒後の受け入れ先が少ない。  
※2019年度0名(就職者過去2名)

② 今後の改善方策

留学生を受け入れてくれる就職先の確保に努め、体制を強化する。  
※採用された留学生は積極的に動いていた。  
特定技能1号の取得を薦めていく。

③ 特記事項

2019年度3名在籍。

④ 学校関係者評価委員会コメント

(町井委員) 留学生が今後コロナ禍をふまえ、どういう形で留学してくるか不透明な部分は感じるが、現場としては人手不足をふまえると、今後さらに求められる人材となる。窓口は常に開放して欲しい。



#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・退学率の問題は若干低下したものの、引き続き学校としては真摯に受け止め対応を強化していく。
- ・現状、学校運営に関して一定の評価は出ているが、例年と同様に個々の生徒対応において教職員側のスキル不足が課題として継続している。
- ・教職員は学校における自身の貢献度や生徒指導を考え、教育方針を実行するための教職員教育は継続実施する。
- ・入学生が増えたことは学校としての存在意義が示せていることになり喜ばしいことである。ただ毎年、心にいろんな悩みを抱えていることを生徒がいることをふまえると、その分生徒にかかわっていく時間も多くなるので、献身的な生徒対応をすることが健全な学校運営につながることを意識する。

#### 学校関係者評価委員会コメント(全体を通して)

- (町井委員) 生徒が増えるということは対応する機会が多くなるので、教員のスキル向上は必須。栄養士業界の今年度採用状況については病院や老人施設的に閉鎖はありえない。個人経営の会社はこのコロナ禍により状況は厳しいようだが、栄養士が設置される集団給食施設ではほとんど影響はないと思われる。そんな中で学校の社会的意義をふまえ、教育理念をふまえたいい生徒を輩出できるように、これからも教育して欲しい。
- (堀江委員) 今後はオンライン授業が増加することも考えられる。これにより、対面でのリアルな授業が困難な場合、実技実習の魅力をオンラインでどう伝えるのか、質の担保を検討してもらいたい。これまでと同じような伝え方は通用しなくなる可能性がある。
- (石田委員) 退学率の問題は生徒の今の悩みをふまえると、手厚いサポートを続ける必要がある。学校としてのニーズがある限り、継続的な対応が必要である。

以上